

ID ^{注1)}	031128	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙	保管場所 ^{注1)}		前回ID	
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	---	---------------------	--	------	--

報告書名称 /調査名称	白山山地世界遺産地域の森林生態系保全のためのモニタリング手法の確立と外縁部の森林利用との調和を図るための森林管理に関する研究報告書（平成10～14年度）／カマアシムシ類(無翅昆虫類)						発行年月/報告年月	
	2004年		10月		2月			
	資料形式 ^{注2)}						報告書	

調査機関	環境省自然環境局 東北地区自然保護事務所	委託機関	中村修美(埼玉県立自然史博物館)
------	----------------------	------	------------------

調査開始年	1999年	10月	調査期間	1999年	10月	～	1999年	10月
-------	-------	-----	------	-------	-----	---	-------	-----

調査頻度 ^{注2)}	—	—	調査時期 ^{注2)}	秋	—
---------------------	---	---	---------------------	---	---

モニタリング計画	2012年3月 策定	区分 ^{注2)}	ⅡB	大区分 ^{注2)}	2	小区分 ^{注2)}	(1)
----------	------------	-------------------	----	--------------------	---	--------------------	-----

調査箇所・範囲 ^{注3)}	目的・調査手法
------------------------	---------

核心地域 緩衝地域 周辺地域

GPS等の位置データあり

※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

①一般土壌動物定性調査用試料
1999年10月2日、櫛石山南斜面モニタリングサイト(標高520m)大雨、気温13.0℃、地温13.4℃。コドラートE2、E6およびE10の枠内から約15リットルの土壌試料(林床落枝・落葉を含め5cmの深さまで)を2袋ずつ、およびコドラート外から同量の土壌試料を1袋、合計7袋の試料を採取した。10月3日、櫛石山尾根部モニタリングサイト(標高620m)、大雨、気温9.8℃、地温13.4℃。コドラートE2、E6、そしてE10の枠内から約15リットルの土壌試料を2袋ずつ、およびコドラート外から同量の試料を1袋、合計7袋の試料を採取した。これらの試料を採取日のうちに宅配便で獨協医科大学、昭和大学、千葉県立中央博物館に送り、定性調査用大型ツルグレン装置で土壌動物を抽出した。

②一般土壌動物定性調査用試料-2
1999年に採取した試料は大雨の下で得たものなので試料の状態が良くないため、2001年に同所で補足試料を採取した。2001年9月1日、櫛石山尾根部モニタリングサイト、コドラート内のBC56(KU-BC56)とJ56(ON-IJ56)、およびコドラート南東側枠外(ON-OUT)の3カ所、林床表層土壌をリターとともに約10リットルを4袋採取した。2001年9月1日、櫛石山南斜面モニタリングサイト、コドラート内のBC56(KU-BC56)とIJ56(KU-IJ56)およびコドラートの北側枠外(KU-OUY)の3カ所定性試料を採取した。これらの試料は同日の内に宅配便で獨協医科大学および昭和大学に送り、それぞれ的大型ツルグレン装置で土壌動物を抽出した。

結果概要 (スペースに収まるように入力してください)

1999年10月と2001年9月の調査により、櫛石山尾根より214個体が、櫛石山南斜面より167個体が採集された。それらからはそれぞれ2科6属6種と2科7属11種が確認された。全体としては、2科8属13種381個体が確認された。

記録された種をみると、モリカワカマアシムシ、トサカマアシムシ、ヨシムシ、ウダガワカマアシムシは本州の温帯圏で普通に見いだされる種である。ミチノクミスジカマアシムシ、オオバカマアシムシ、コブクシカマアシムシ、ヤマトカマアシムシ、ジュンカマアシムシは冷温帯から亜寒帯を主たる分布圏とする山地性の種であり、ミチノクミスジカマアシムシ、オオバカマアシムシ、ジュンカマアシムシの3種は本州北部から北海道に、コブクシカマアシムシは岐阜県を南限とし本州中部域では山地にのみ分布している。アズマミスジカマアシムシは本州東部で、B. loxoglenusは本州中部・東部の山地帯で記録されていたが、今回の記録はそれぞれ最北のものとなる。調査地からすると当然のことではあろうが、全体としては冷温帯から亜寒帯を主たる分布圏とする山地性の種が多いところに特徴がある。

調査地点の各種の出現比率を表1に示した。

表1. カマアシムシ類各種の優占度

	櫛石山尾根		計		櫛石山南斜面		計	
	19991003	19991003+ 20010901		0.5%	19991002	20010901		
アズマミスジカマアシムシ	1		1	0.5%	2	2	2	1.2%
ミチノクミスジカマアシムシ					5	10	15	9.0%
Baculotulus loxoglenus	3		3	1.4%	3	6	9	5.4%
モリカワカマアシムシ					3	2	5	3.0%
トサカマアシムシ					3	6	9	5.4%
ヨシムシ					1	1	2	1.2%
オオバカマアシムシ	149	4	53	206	38	55	93	55.7%
コブクシカマアシムシ			1	0.5%				
ヤマトカマアシムシ	2		2	0.9%	5	5	10	6.0%
ジュンカマアシムシ					2	1	3	1.8%
ウダガワカマアシムシ					1	1	2	1.2%
Esantomon cf. ussagamai	1		1	0.5%	3	3	6	3.6%
Isoentominae sp.								
個体数	156	4	54	214	90	77	167	
種数	5	1	2	6	10	7	11	

* 羅川によるサンプラーでの定量採集

問い合わせ	環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635 《原本(データ)の帰属について》
-------	---

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考